

北海道港湾空港建設協会

会報

平成26年 9 月

北のみなと

No.83



— 目 次 —

Report

日本港湾空港建設協会連合会 第31回通常総会開催 1

受章

春の叙勲受章者..... 2

・勇建設(株)坂敏弘社長が旭日章双光章を受章

受賞

平成26年度 国土交通省建設事業等関係者大臣表彰 2

平成26年度 「海の日」 海事関係功労者大臣表彰受賞者 3

平成26年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰受賞者 3

平成26年度 北海道開発局優良工事等の表彰 4

平成26年度 北海道開発局港湾空港関係功労者表彰 8

平成26年度 各協会の表彰に関する記事 10

・(公社)日本港湾協会会長賞表彰 港湾功労者賞

・(一社)日本港湾空港建設協会連合会 会長賞表彰

・(一社)日本海上起重技術協会 会長表彰

・(一社)日本潜水協会 会長表彰

平成25年度 土木学会北海道支部長「技術賞」受賞 13

・苫小牧港西港区長周期波対策工

全建賞 14

・特定漁港漁場整備事業(追直地区)沖合人工島の整備

・鵜泊沿岸壁(-6.0m)改良事業と鵜泊港新フェリーターミナル整備

各種記事

我が社の安全衛生管理 (榎吉本組 専務執行役員 清水 憲光) 16

私の趣味「雑感〜フランスのナント市を訪ねて〜」

(りんかい日産建設(株) 宮本 義憲) 18

Topics

イベント

海洋センターと水深6.5m岸壁が供用開始 20

香深港耐震強化岸壁供用記念式典を開催 20

石狩湾新港開港20周年記念式典を開催 21

増毛えび地酒まつり2014開催 21

大型客船等寄港

大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が函館港に寄港 22

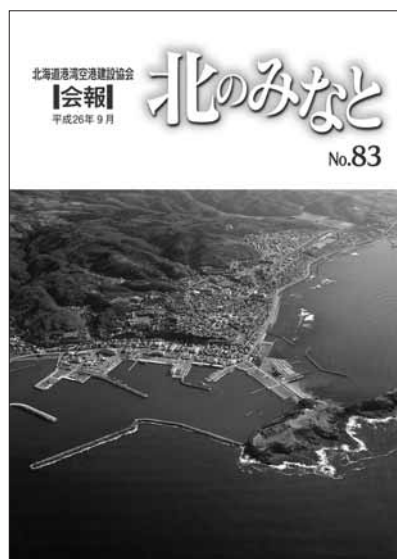
大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が小樽港に初寄港 22

各港で舟漕ぎ大会やボートレースが開催される

(釧路、苫小牧、函館、室蘭、稚内) 23

Information

広報委員会だより..... 25



江差港は、江差町をはじめとする檜山7町をその背後地に、この地域の経済活動の中核地として大きな役割を果たしています。

本港は自然の良港として、蝦夷地と称された藩政時代より繁栄を続け、本道第2期拓殖事業として大正14年に本格的な修築が開始され、昭和4年に完了、現在の江差港の基礎となりました。

現在は砂・砂利・石材等の積出港として、また、離島奥尻とのフェリー基地として、更に日本海漁場開発や日本海を漁場とする本州方面の外来漁船の水揚げ港として物資の供給上からも極めて重要な役割を果たしています。

日本港湾空港建設協会連合会 第31回通常総会開催



日本港湾空港建設協会連合会の第31回通常総会は、平成26年5月14日(水)に東京都の明治記念館で開催された。開催にあたっては川嶋会長から、「昨年30周年を迎えた。平成26年度当初予算がわずかでも増加し、税制改正でも作業船の買い換え特例が認められた。港湾法の改正や公共工事の品質確保の促進に関する法案の改正などの恩恵を受けて、さらに発展し、新たな31年目の第一歩を踏み出したい」との挨拶があった。

議案は、理事の補充についての報告、平成25年度事業報告及び収支決算、平成26年度事業計画及び収支予算(案)が提出・承認され、任期満了に伴う役員の選任が行われました。役員の選任では、川嶋会長が会長に、北海道港湾空港建設協会宮崎会長が副会長に再任された。

平成26年度 事業計画

1 会報の発行

港湾空港関係予算・技術開発等、港湾空港関係の諸情報並びに会員の意見・要望等を掲載した会報を年4回発行し、会員相互の情報交換を行う。

2 研修講習会等の開催

港湾空港建設事業の社会的地位の確立と技術開発の向上を目的とした講習会及び見学会を実施する。講習会は春、秋の2回中堅技術者を対象に実施し、11月中旬に経営者及び幹部職員を対象に経営者セミナーを東京都で開催する。また、「独占禁止法と暴力団排除条例について」の講習会を(一社)日本埋立浚渫協会と共催で行う。その他、ミニ研修会(行政)を協会会議室で随時開催する。

3 要望及び意見等の発信

- ①港湾空港関係予算及び港湾空港事業に係る諸課題について、関係方面及び関係機関に対して要望又は意見交換を実施する。
- ②港湾空港建設に係る当面の諸課題に関する要望や意見交換を、各地区連合会と共同して関係機関に対して実施する。
- ③都道府県協会が行う港湾空港建設に係る当面の諸課題に関する関係機関との要望や意見交換を支援、共同して実施する。

4 調査研究

- ①港湾空港建設業の発展に関する調査研究及び資料の収集を行う。
- ②地区連合会技術委員会の活動経費に対して補助を行う。
- ③契約、設計、積算に関する調査研究。
- ④労働、安全、税制に関する調査研究。
- ⑤建設行政に関わる調査研究。

5 災害復旧、復興事業に対する協力及び支援

東日本大震災に係る災害復旧、復興事業の一日も早い達成のため、全面的に協力・支援を行う。

6 港湾・空港プロジェクトの推進

国または地方公共団体における港湾空港プロジェクトの発掘、推進に関して、建設業の知見から協力・支援を行う。

7 港湾空港の整備・振興、港湾工事の推進に関する広報・啓蒙活動

- ①港湾及び空港の整備・振興並びに港湾工事の推進に関し、広く社会一般に理解を得るとともに支持されるための広報・啓蒙活動を行う。
- ②①と同様、国政の場に反映するため、国内港湾活動の実態や建設工事現場等の視察等を通じ、関係国会議員等の理解、支援を深耕する活動を展開する。

平成26年春の叙勲受章者 勇建設(株)坂敏弘社長が旭日章双光章を受章

平成26年春の叙勲受章者が発表され、勇建設(株)の坂敏弘社長が建設業振興功勞で旭日章双光章を受章した。

昭和41年以来、48年にわたり建設業に従事するとともに、関連する各種団体の役員を歴任し、後継者の育成および建設業界の発展に尽力していることが高く評価された。



坂 敏弘 氏

生年月 昭和18年 1 月

学 歴	昭和41年 3 月	武蔵工業大学 工学部 電気工学科 卒業
職 歴	昭和41年 4 月	北海鋼機株式会社 入社
	昭和44年 8 月	勇建設株式会社 入社
	昭和46年 7 月	同社 監査役
	昭和55年 7 月	同社 取締役
	昭和58年 7 月	同社 常務取締役
	昭和62年 8 月	同社 専務取締役
	平成元年 8 月	同社 代表取締役社長 現在に至る
団体歴	平成元年 6 月	全日本漁港建設協会 北海道支部 支部長 現在に至る
	平成12年 5 月	一般社団法人札幌建設業協会 副会長 現在に至る
	平成22年 5 月	一般社団法人北海道建設業協会 副会長 現在に至る
	平成25年 5 月	一般社団法人全日本漁港建設協会 副会長 現在に至る
賞 罰	平成18年 7 月10日	建設事業関係功勞者表彰 受賞 (国土交通大臣表彰)
	平成25年 7 月25日	全国建設業協会会長表彰 受賞
	平成26年 4 月29日	旭日双光章 受章

平成26年度 国土交通省建設事業等関係者大臣表彰

国土交通省は7月10日、平成26年度建設事業関係者等大臣表彰の表彰式を行った。

道内からは3名が選出され、うち当協会から藤建設(株)の藤田幸洋代表取締役社長が受賞された。

表彰は、長年にわたり建設事業等の発展に貢献した建設業関係者や行政関係者を顕彰することを目的に毎年実施しているもの。

藤田幸洋社長は、稚内建設協会の会長を務め、地方建設業界発展への寄与とともに、道建協の理事として本道建設業の発展に貢献した。



藤田 幸洋 氏

生年月 昭和30年 3 月

藤建設(株) 代表取締役社長

団体歴

北海道建設業協会 理事
稚内建設協会 会長
北海道港湾空港建設協会 副会長
全国浚渫業協会北海道支部 支部長
日本海上起重技術協会北海道支部 副支部長
全日本漁港建設協会北海道支部 副支部長
北海道土木施工管理技士会 理事
稚内商工会議所 常任理事
稚内労働基準協会 会長

平成26年度 「海の日」海事関係功労者大臣表彰受賞者

国土交通省の平成26年「海の日」海事関係功労者大臣表彰受賞者に、道内関係者では港湾関係で㈱吉本組代表取締役社長の吉本正則氏が栄誉に輝いた。

吉本氏は、多年にわたり港湾建設事業の振興に努め、発展に寄与した功績が高く評価された。表彰式は、7月30日東京都内で執り行われた。



吉本 正則 氏

生年月 昭和18年4月

㈱吉本組 代表取締役社長

略 歴

昭和36年 吉本組 入社

昭和44年 ㈱吉本組設立 代表取締役社長就任
現在に至る

平成26年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰受賞者

水産庁の平成26年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰で、道内から農林水産大臣表彰に堀松建設工業㈱（本社：留萌市、堀松一郎代表取締役社長）、水産庁長官表彰に丹羽建設㈱（本社：浜頓別町、丹羽幹典代表取締役）が選ばれた。

同表彰は、高い技術力と優れた施工管理で、他の模範となる成果を残した請負者を顕彰することで、円滑な事業の推進につなげることを目的に実施している。表彰式は5月15日東京都内で執り行われた。

農林水産大臣表彰



堀松建設工業㈱

堀松 一郎 氏

代表取締役社長

会社概要

本社所在地	留萌市
創業	昭和4年
設立	昭和23年
資本金	5,000万円

水産庁長官表彰



丹羽建設㈱

丹羽 幹典 氏

代表取締役

会社概要

本社所在地	浜頓別町
創業	大正6年
設立	昭和29年
資本金	8,000万円

平成26年度 北海道開発局 優良工事等の表彰

工事成績評価が特に優秀なほか、
創意工夫や技術の向上に顕著な成果などを挙げた企業と技術者に対して、
局長及び部長表彰を授与

北海道開発局は7月17日、札幌第1合同庁舎で平成26年度優良工事等局長表彰の授与式を行った。平成25年度に完成した工事1,934件の中から局長表彰工事29件（33社）が選定され、工事を施工した33社と、その工事に携わった技術者に、岡部和憲北海道開発局長から表彰状が授与された。

港湾・空港・漁港部門における局長表彰は、①㈱高木組が施工した「函館港北ふ頭地区－6.5m岸壁船尾部建設工事」②近藤工業㈱が施工した「小樽港北防波堤改良工事」③勇・酒井経常JVが施工した「浦河港西島防波堤建設工事」④渡辺建設工業㈱が施工した「歯舞漁港（温根元地区）－2.0m物揚場工事」⑤㈱中田組が施工した「鷺泊港－6.0m岸壁改良その他工事」の5件（6社）が受賞した。

開発建設部長表彰は、函館（菅原・勇経常JV）、小樽（勇・近藤経常JV）、室蘭（菱中建設㈱、㈱山口工業所）、釧路（勇・葵経常JV）、帯広（拓殖工業㈱）、網走（㈱西村組）、留萌（ハラダ工業㈱、三協建設㈱）が受賞した。

— 港湾・空港・漁港部門における受賞工事 — 【北海道開発局長表彰】

○工事名：函館港北ふ頭地区
－6.5m岸壁船尾部建設工事

発注者：函館開発建設部

施工者：㈱高木組

技術者：三好 秀明 氏



〔表彰理由〕

既設岸壁は鋼製の円形セル式構造であり、床掘にあたっては既設セルを損傷し、中詰土砂が流出しないよう細心の注意を払う必要がありました。さらに、床掘地盤の一部が固結するなど、狭隘箇所での作業条件として困難な中、安全かつ確実に施工すべく、的確に作業船舶を選定し施工にあたりました。

一方、フェリー岸壁の船尾部には、車両の乗下船に必要な可動橋が設置されるため、本体工（ケーソン）の据付に高度な精度が要求されます。この施工管理にあたり、別ケーソンを一旦仮置きし、定規代わりとすることにより、据付誤差を最小限に留めるなど、出来映え及び品質向上に努めていました。また、岸壁付属設備（車止）の施工にあたり、発錆しやすいアンカーボルトに種々の防錆対策を施す工夫がありました。

○工事名：小樽港北防波堤改良工事

発注者：小樽開発建設部

施工者：近藤工業㈱

技術者：柴田 将司 氏



〔表彰理由〕

本工事は、タコやサケ等の漁業活動に支障を来さぬよう、起重機船による海上作業期間が7月中旬から8月中旬までと限定される中、歴史的価値のある防波堤を考慮し、通常、捨石投入にオレンジバケット施工を選定するところを、堤体に損傷を与えないワイヤーモックを使用した捨石投入を行いました。本施工方法は作業効率を低下させるところですが、事前に石材を大型土のうに小分けして積込むなど、海上作業時の効率化を図り、海上作業期間を厳守しました。また、被覆ブロック製作後の転置作業では、転置用吊り金具を考案し、従来作業で起こりえる玉掛け作業時の挟まれ・転倒事故防止を図り、安全対策の向上に努めるなど、他工事の模範となるものでした。

○工事名：浦河港西島防波堤建設工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：勇・酒井経常JV

技術者：矢野 好規 氏(勇建設) 廣内 隆盛 氏(酒井建設)



〔表彰理由〕

工事箇所は外海に面し、波や潮流の影響を受けるほか水深が約12mと深く、基礎マウンド構築やケーソン据付の精度確保に高い技術力が必要となります。また、作業ヤードは石材の荷役作業場所と隣接し港湾利用者への安全確保が必要でした。このため、外海でのケーソン据付経験を有する習熟した作業員の配置と注水ポンプや固定用ウインチの大型化など、迅速で安定した作業を確保する工夫により高い精度で据付しました。また、作業ヤード出入口に工事車両の通行を知らせる検知器を設置し、一般利用者への安全を確保する独自の工夫を行いました。さらに、ケーソン据付時に実施した発注者の広報活動時に施工状況を逐次連絡する体制を積極的に構築するなど、事業目的を理解し、安全や施工管理に対する意識と取り組みが非常に優れ、品質、出来形とも他の模範となるものでした。

○工事名：歯舞漁港（温根元地区）－2.0m物揚場工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：渡辺建設工業㈱

技術者：山白 道敏 氏



〔表彰理由〕

当該工事施工にあつては、近隣漁港からの船舶集結により港内が狭隘になることから、漁業関係者との連絡調整を密に行う必要がありました。また、近隣には昆布漁場、漁港内では養殖利用の海水取水口を設置しており、自然環境に配慮する必要がありました。そのため、工期短縮と水質維持を重要とする施工計画を作成しています。環境対策としては、水中コンクリート打設から基礎ブロックへ施工方法を変更したこと、生分解質の型枠剥離剤を使用したことなどにより、環境負荷を最小にするようにしました。また、これらの対策から同時に工期を大幅に短縮しました。さらに、職員間の多重無線による連絡の確保や客観的なリスクアセスメントの作成によって安全管理を適切にしていました。品質に関しては、ブロック製作時のコンクリート打設において振動伝達の高い振動機を用いることにより、初期欠損の防止を図るための工夫をしていました。これらの対応により、出来型・出来映えも他工事の模範となるものでした。

○工事名：鴛泊港－6.0m岸壁改良その他工事

発注者：稚内開発建設部

施工者：㈱中田組

技術者：松川 和宏 氏



【表彰理由】

フェリー岸壁の改良は、生活物資の輸送の確保、観光客の安全、景観の配慮が求められる工事であり、大型土嚢による法崩れ対策やバリケード設置による転落防止、静的破碎剤を併用したコンクリート取壊しの騒音・振動低減、周辺の景観に配慮した係船柱及び照明基礎への景観舗装による環境対策、仮設ターミナル周辺の排雪及び斜路の補修等の地域貢献などに創意工夫を行いました。また、波浪が激しい汀線付近での施工であった東防波護岸の改良も含め、出来形・品質に優れ、無事故・無災害で完成させました。また、同時施工された利尻富士町によるフェリーターミナル改修工事との工程管理を確実に行うことで、新ターミナルの供用に影響を与えることなく実施できました。これらの取組は、他の工事の模範となる優れた工事と評価しました。

【各開発建設部表彰】

○工事名：江良漁港－3.5m岸壁その他工事

発注者：函館開発建設部

施工者：菅原・勇経常JV

技術者：泉 等 氏(菅原組)、大輪 哲也 氏(勇建設)

○工事名：古平漁港－3.5m岸壁改良その他工事

発注者：小樽開発建設部

施工者：勇・近藤経常JV

技術者：酒井 智光 氏(勇建設)、藤原 真一 氏(近藤工業)

○工事名：苫小牧港西港区岸壁－9m改良埋立工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：菱中建設(株)

技術者：高沢 治彦 氏

○工事名：室蘭港崎守地区臨港道路(改良)工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：(株)山口工業所

技術者：渡辺 寛史 氏

○工事名：羅臼漁港ケーソン製作その他工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：勇・葵経常JV

技術者：菊地 圭一 氏(勇建設)、茜 宏文 氏(葵建設)

○工事名：大津漁港南防波堤建設工事

発注者：帯広開発建設部

施工者：拓殖工業(株)

技術者：佐藤 英美 氏

○工事名：ウトロ漁港西防波堤建設工事

発注者：網走開発建設部

施工者：(株)西村組

技術者：本田 喜昭 氏

○工事名：遠別漁港－3.5m岸壁改良その他工事

発注者：留萌開発建設部

施工者：ハラダ工業(株)

技術者：齊藤 隆行 氏

○工事名：増毛港中防波堤建設工事

発注者：留萌開発建設部

施工者：三協建設(株)

技術者：南波 聡 氏

平成26年度 北海道開発局港湾空港関係 功労者表彰

RH13/H0

h/H0'

北海道開発局は7月25日、札幌第1合同庁舎で本年度の「港湾空港関係功労者表彰」および「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」の表彰式を行い、川合紀章港湾空港部長が受賞者一人ひとりに表彰状を授与した。

この表彰は、港湾空港整備事業の推進を目的として、港湾空港関係の業務等に関し、功労のあった方々を対象に実施している。

今年度の功労者表彰は、葵建設株式会社（釧路市）代表取締役社長の山中博氏、萩原建設工業株式会社（帯広市）代表取締役社長の萩原一利氏、有限会社福嶋潜水（浦河町）代表取締役の福嶋武氏の3氏と前利尻富士町長 吉田勤氏、前枝幸町長 荒屋吉雄氏が受賞した。また、海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動では、「網走セーリング協会 “北緯44度”」（網走市）が受賞した。

川合部長は表彰状授与後のあいさつで「各地で整備された港湾施設が広く利用され、北海道の発展のために機能していることは、皆さんのご努力があってこそ」と感謝するとともに、今後のさらなる活躍に期待を寄せた。



北海道港湾空港建設協会 推薦
(一社) 日本海上起重技術協会北海道支部 推薦



葵建設株式会社 代表取締役社長

山中 博 氏

生年月 昭和23年 4 月

略 歴

昭和42年 4 月	葵建設株式会社	入社
平成15年 6 月	同上	常務取締役 就任
平成16年 9 月	同上	専務取締役 就任
平成17年 8 月	同上	代表取締役社長 就任
現在に至る		

北海道港湾空港建設協会 推薦



萩原建設工業株式会社 代表取締役社長

萩原 一利 氏

生年月 昭和26年 3 月

略 歴

昭和51年 5 月	萩原建設工業株式会社	入社
昭和55年 6 月	同上	常務取締役 就任
昭和61年 7 月	同上	取締役副社長 就任
平成15年 8 月	同上	代表取締役社長 就任
現在に至る		

(一社) 日本潜水協会札幌支部 推薦



有限会社福嶋潜水 代表取締役

福嶋 武 氏

生年月 昭和16年 2 月

略 歴

昭和34年 4 月	室蘭土木現業所厚賀出張所	入所
昭和40年 4 月	株式会社南組	入社
平成63年12月	有限会社福嶋潜水設立	代表取締役 就任
現在に至る		

平成26年度 (公社)日本港湾協会会長賞表彰 港湾功労者賞

RH₁₃H₀'

b/H₀'

永年にわたり、港湾の発展に尽くされた功績顕著な方々に贈られる港湾功労者賞の表彰が行われた。平成26年5月28日ひたちなか市日立シビックセンターで開催された(公社)港湾協会の第87回通常総会に先立ち、北海道港湾協会及び(一社)日本海上起重技術協会の推薦により道内から5名の方が表彰されました。受賞された皆様には、心からお慶び申し上げます。

北海道港湾協会推薦 (順不同)



森 義美 氏

生年月 昭和23年11月

協立海上運輸(株) 専務取締役

略 歴

昭和44年 協立海上運輸(株) 入社
平成3年 同社 取締役総務部長
平成17年 同社 専務取締役
現在に至る



三原 一憲 氏

生年月 昭和28年2月

(一社)寒地港湾技術研究センター
第一調査研究部長

略 歴

昭和46年 北海道開発局
平成25年 留萌開発建設部 次長
平成25年 (一社)寒地港湾技術研究センター
第一調査研究部長
現在に至る



高橋 正夫 氏

生年月 昭和27年9月

(一財)港湾空港総合技術センター
調査役

略 歴

昭和49年 北海道開発局
平成25年 室蘭開発建設部
苫小牧港湾事務所 副所長
平成25年 (一財)港湾空港総合技術センター
北海道支部 調査役
現在に至る



磯田 一喜代 氏

生年月 昭和25年9月

(株)いそ田 取締役

略 歴

昭和44年 北海道開発局
平成23年 網走開発建設部
工事品質管理官
平成23年 (株)いそ田 取締役
現在に至る

(一社)日本海上起重技術協会推薦



大久保 善治 氏

生年月 昭和26年9月

白崎建設(株) 常務取締役

略 歴

昭和45年 北海道開発局
平成24年 室蘭開発建設部
苫小牧港湾事務所副所長
平成24年 白崎建設(株) 常務取締役
現在に至る

平成26年度 (一社)日本港湾空港建設協会連合会 会長賞表彰

北海道港湾空港建設協会から 8 氏が受賞

経営の合理化、工費の適正化、技術の向上、作業の効率化、従業員の労務・厚生改善等で協会の発展に尽くした功績を顕著として、平成26年5月14日東京都内の明治記念館で開催された日本港湾空港建設協会連合会第31回通常総会において、当協会から次の8氏が会長表彰を受賞されました。受賞された皆様には、心からお慶び申し上げます。

代表者表彰者



西村 幸浩 氏
生年月 昭和38年9月
(株)西村組 代表取締役

略 歴

昭和62年 (株)西村組 入社
平成8年 同社 取締役副社長
平成14年 同社 代表取締役
現在に至る



高橋 廣志 氏
生年月 昭和23年6月
(株)西村組 取締役営業部長

略 歴

昭和43年 (株)西村組 入社
平成12年 同社 取締役営業部長兼網走営業所長
平成15年 同社 取締役営業部長
現在に至る

従業員表彰者 (順不同)



川森 雄二 氏
生年月 昭和31年10月
堀松建設工業(株) 機材部長

略 歴

昭和50年 堀松建設工業(株) 入社
平成元年 同社 現場代理人
平成17年 同社 機材部長
現在に至る



岩城 儀人 氏
生年月 昭和31年12月
勇建設(株) 工務部 工事次長

略 歴

昭和54年 勇建設(株) 入社
平成7年 同社 作業所長
平成23年 同社 工務部 工事次長
現在に至る



斉藤 勝司 氏
生年月 昭和32年11月
機械開発北旺(株)
工務部次長兼維持課長

略 歴

昭和55年 北海道機械開発(株) 入社
平成20年 機械開発北旺(株) 工務部工事長兼維持課長
平成23年 同社 工務部次長兼維持課長
現在に至る



菅野 浩 氏
生年月 昭和33年1月
藤建設(株)
執行役員 礼文支店長

略 歴

昭和53年 藤建設(株) 入社
平成18年 同社 稚内事業部
平成21年 同社 執行役員 礼文支店長
現在に至る



並松 知己 氏

生年月 昭和36年 3 月

(株)高木組 執行役員 土木部長

略 歴

昭和60年 (株)高木組 入社
平成22年 同社 土木部長
平成25年 同社 執行役員 土木部長
現在に至る



野坂 昭浩 氏

生年月 昭和36年 7 月

(株)濱谷建設 専務取締役

略 歴

昭和57年 (株)協和潜建 (現(株)濱谷建設) 入社
平成16年 同社 常務取締役
平成25年 同社 専務取締役
現在に至る

平成26年度 (一社)日本海上起重技術協会会長表彰

永年にわたり協会発展のために尽力・精励し特に功績顕著として、(一社)日本海上起重技術協会会長表彰が平成26年5月9日東京都の都市センターホテルで開催された第27回通常総会において行われ、三協建設(株)瀬戸詔隆氏と藤建設(株)佐々木勝治氏の両名が受賞されました。受賞された両名に心からお慶び申し上げます。



瀬戸 詔隆 氏

生年月 昭和27年 2 月

三協建設(株)

略 歴

昭和42年 4 月 三協建設(株) 入社
平成 8 年12月 「海上起重作業管理技士」取得
平成16年 5 月 建設マスター顕彰
(建設機械運転工 海上工事部門)
現在に至る



佐々木 勝治 氏

生年月 昭和33年10月

藤建設(株)

略 歴

昭和63年 5 月 藤建設(株)入社
平成 9 年12月 「海上起重作業管理技士」取得
平成21年12月 「海上起重基幹技能者」取得
現在に至る

平成26年度 (一社)日本潜水協会会長表彰

永年にわたり(一社)日本潜水協会並びに潜水業界の発展のため多大の貢献をされ、特に顕著として平成26年5月27日東京都の東京會館で行われた第42回定時総会において会長賞を授与されました。受賞された両名に心からお慶び申し上げます。



堀松 宏朗 氏

生年月 昭和19年 4 月

白鳥建設工業(株) 取締役会長

略 歴

昭和43年 堀松建設工業(株) 入社
平成15年 白鳥建設工業(株) 入社
平成15年 同社 代表取締役就任
平成24年 同社 取締役会長
現在に至る



栄 修二 氏

生年月 昭和36年 1 月

栄潜水サービス

略 歴

昭和58年 (株)富士海洋土木 入社
平成23年 栄潜水サービス設立
現在に至る

土木学会北海道支部長「技術賞」 苫小牧港西港区長周期波対策工が受賞

土木学会北海道支部は4月24日2013年度技術賞を発表し、苫小牧港西港区長周期波対策工が受賞した。

同賞は1977年度に創設。最先端の土木技術や革新的な工法を導入した現場を表彰している。

受賞理由

苫小牧港は、北海道の農水産品の本州への輸送等のため、フェリー等の定期航路が数多く就航し、内貿の取扱貨物量は全国1位となっている。しかし、波浪に対して必要な防波堤整備が行われているのにも関わらず、フェリー等の船体動揺により、荷役の中断、係留索の切断やタグボートの出動等、フェリー等の定時性に影響を与える問題が生じていた。

このため、北海道開発局室蘭開発建設部苫小牧港湾事務所では船体動揺や波浪の観測を継続的に実施し、通常の波より波高が非常に小さいもののエネルギーの大きな長周期波が船体動揺の原因であると特定し、対策に関する技術的な検討と現地施工を行い、その効果を確認した。

これまでの長周期波対策は、防波堤の延伸が一般的であったが、苫小牧港は大水深のため防波堤整備には多大な費用と期間を要することから、既設防波堤背後に長周期波エネルギーの低減を目的とし、割石による吸収層を設置する構造を全国に先駆け採用した。

完成後の現地調査結果では、対策工の整備により、長周期波高が最大で約4割低減し、また、整備前なら出動していたタグボートが必要となる船体動揺は発生していない。さらに、海藻や魚介の生息を確認し、環境との共生とコスト削減を実現した。

以上のとおり、吸収層による長周期波対策について、コスト削減をはかりながら、その効果が確認された。先駆的な取り組みであったことに加え、今後の本対策の普及に寄与することから、土木学会北海道支部技術賞を授与される価値があるものと認められた。



特定漁港漁場整備事業(追直地区)沖合人工島の整備及び鵜泊港岸壁(-6.0m)改良事業と鵜泊港新フェリーターミナル整備が全建賞を受賞

事業名：特定漁港漁場整備事業（おいなほし追直地区）沖合人工島の整備

受賞機関：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部室蘭港湾事務所

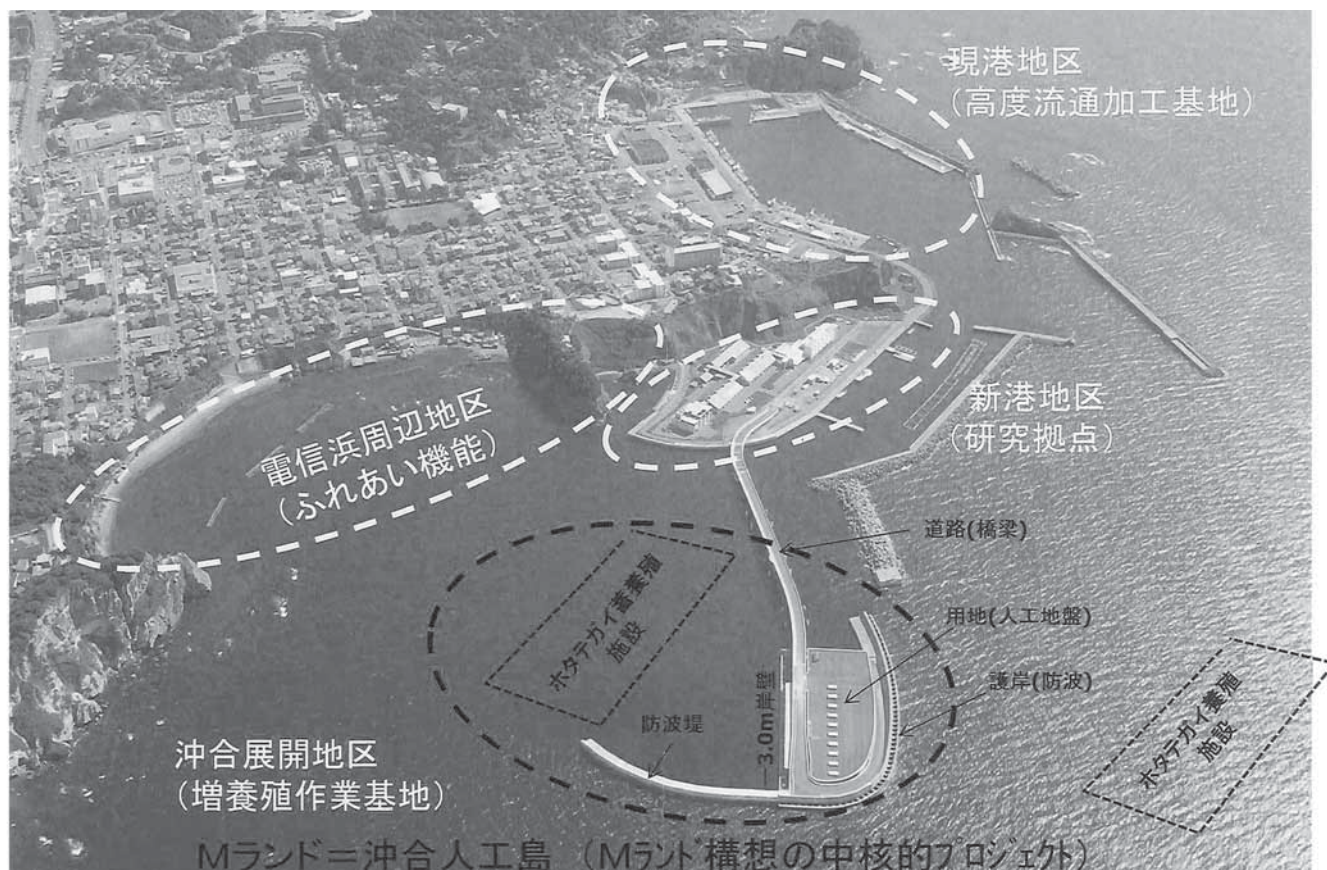
実施期間：平成8年8月8日～平成25年3月22日

「事業概要と評価」

人工地盤を有する沖合人工島の整備による衛生管理体制の向上や静穏域を活用したホタテガイ出荷の安定化と併せてブランド化を推進し、整備前の2倍を超える出荷量を達成した点や、海上橋脚に我が国初のジャケット式を採用し、海水流動の阻害を抑え養殖環境への配慮がなされた点が評価された。



全建賞 受賞盾



R_{H13}/H_0'

b/H_0

事業名：^{おしどまり} 鷺泊港岸壁（-6.0m）改良事業と鷺泊港新フェリーターミナル整備

受賞機関：国土交通省北海道開発局稚内開発建設部稚内港湾事務所 北海道利尻富士町

実施期間：平成24年7月18日～平成26年2月28日

「事業概要と評価」

既設岸壁を活かした、岸壁の拡幅改良とフェリーターミナルの整備により、工期短縮・コスト削減が達成されたこと。また、搭乗時、雨・風・雪に晒されないよう、フェリーターミナルにボーディングブリッジを採用することで、バリアフリー化を達成していることが評価された。



エレベーター、エスカレーター等バリアフリー対策がとられた



我が社の安全衛生管理

(株)吉本組 専務執行役員 清水 憲光

1. はじめに

当社は昭和23年創業以来、今年で65年に至っております。

後志を拠点に港湾・漁港、道路、水産、農業などの総合建設業者として事業展開を図っているところです。

経営理念のもとに社業の発展を通じて地域社会の貢献と精神を持って社員一同が幸せになることを目標に、最高の技術力を結集し顧客や地域社会に対し安心していただける建設物の提供を目指しております。

2. 店社安全衛生基本方針

当社は、労働安全衛生のマネジメントシステム「OHSAS18001」を2003年に導入、品質・環境を含めた3規格を統合したシステムを運用しております。その中で以下の労働安全衛生方針を掲げており、当社で働く全ての人の安全第一を常に心がけております。

・労働安全衛生基本方針

「安全第一を常に心がけ、的確な安全衛生管理を行うことにより労働災害の絶無を図る」

- 1) 協力会社との連携を強化し、安全意識の向上と作業手順の徹底により、ヒューマンエラーによる災害・事故を防止します。
- 2) 法令順守の徹底とリスク評価による適切な対策を図ることで労働災害の防止に努めます。
- 3) 作業環境向上と健康管理を常に心がけ疾病の予防と快適で安全な職場形成に努めます。

3. 安全衛生管理計画

労働安全衛生基本方針を元に、年度当初には店社統一安全スローガンや安全重点施策や実施項目などを定めた「店社安全衛生管理計画」を策定します。

各作業所では、店社安全衛生管理計画に基づき、施工計画当初に作業所安全衛生管理計画を策定した上で各作業所での安全目標を設定、労働災害ゼロを目指します。

4. 店社安全衛生管理活動

①安全大会

毎年5月に当社・関連会社及び協力会社が合同で「環境・労働安全衛生・交通安全大会」を実施します。



環境・労働安全衛生・交通安全大会 社長訓辞

安全祈願、社長による訓辞をはじめ、社員表彰、安全教育や安全講話などで、労働災害ゼロへの意識向上を図ります。



外部講師による安全講話

②店社パトロール

事業部長及び管理職を中心に役職員による「安全推進委員会」を組織し、毎月一回、店社安全パトロールを実施、各作業所の労働安全衛生の管理状況を点検します。

この点検では是正箇所の指摘だけではなく、創意工夫などでの推奨事項を取り上げ、他作業所への水平展開を実施して現場環境改善を促します。



店社パトロール実施状況

③安全推進啓蒙活動

安全推進委員会ではその他に全国安全週間や労働衛生週間に社長安全メッセージの伝達や啓蒙用品の配付、特別パトロールなどを実施し、安全意識の向上を促します。

また、過去には安全啓蒙活動の一環で、自社で撮影・編集した安全啓蒙ビデオを作成、安全大会での上映や各作業所での安全教育資料として配付しました。



安全啓蒙ビデオ製作 撮影状況

5. 作業所安全衛生管理活動

工事着工前には担当者をはじめ、類似工事経験者などを交えての施工検討会を実施し、意見交換を行い想定されるあらゆる事項に対応できるよう協議を行います。その結果を踏まえリスク評価を行い、様々なリスク軽減に努め、「絶対安全」の合言葉で労働災害ゼロ実現へ向けて施工計画を作成します。

着工後に発生した新たなリスクに対する再評価や施策実施後の再評価なども怠らず実施し、日々変わる現場状況に対応し、適切な評価とリスク軽減策を行っていくことで労働災害ゼロを目指します。

施工中は安全朝礼・RKY・TBM活動、新規入場者教育の随時実施、安全サイクルの実施、月次安全教育や災害防止協議会の実施など、様々な安全活動を実践し、リスク軽減と安全意識高揚に努めています。



救急隊員指導のもとでのAED訓練

月次安全教育は各作業所ごとでの実施のほか、安全適正チェックの実施や本社安全推進委員によるプロジェクターを使用した安全教育、作業員参加型の救助訓練なども行われ、マンネリ化を防ぐ工夫も行われています。



安全推進委員による作業所安全教育

6. むすびに

これからも本社・作業所・協力会社が一丸となり関係者一人ひとりが「一歩前へ」の精神を常に心がけ日々邁進することで労働災害の絶無を目指して行きたいと思えます。

私の趣味

『雑感』 ～フランスのナント市を訪ねて～

りんかい日産建設㈱

宮 本 義 憲



《ナント位置図》

昨年の夏、休暇を利用してフランスのナント市に3日間滞在しました。その時の印象を記すことにします。

〔私の趣味〕と何の関係があるのと言われそうですが、外国の町並みを訪ねて見るのが趣味とまではいかなくとも好きなことのひとつなのでご容赦願います。

ナント (Nantes) 市はフランスの西部、ロワール川下流に位置し、パリより南西に約380km、高速列車 (TGV) で1.5時間のところ。人口は28万人余りで国内で6番目とのことです。人口規模は函館市と同じです。

ナントと聞いて直ぐに思い出すのは何と (しゃれではありません) 言っても「ナントの勅令」ではないでしょうか。

世界史の教科書にあったのを思い出す方も多いと思います。私もナントと聞いてすぐにピンときたのですが、その内容 (簡単に言えば1598年、時のフランス王アンリ4世が発した勅令でそれまでの宗教対立を終結させた。) についてはすっかり忘れていたことを白状します。

写真1はこの「ナントの勅令」が発せられたブルターニュ公城です。城内にはナント市の歴史博物館があります。



《写真1》

城の最も古い部分は13世紀に造られており、1532年ブルターニュ公国がフランスとなってからは歴代のフランス国王の居城となったところです。今もナントのシンボリック存在とのことです。ところで、城内を見学していた時に在仏らしき雰囲気日本人女性に「日本人ですか」と尋ねられたので「そうです」と返答したところナントで初めて日本人に会ったと言われてしまいました。ここは観光でも日本人が減多にこない所なのだということが分かりました。

ナントの市街はロワール川によって南北に隔てられ、ロワール川には2つの分流に囲まれたナント島がありますが、もともと河港として発展していた港町であることも訪ねる上で興味を引きました。

写真2は市街地にある旧フォス岸壁を撮影したものです。フランス語のフォス (Fosse) は水深の深い所を意味します。かつてここは主要な岸壁として機能していた場

所ですが現在は係留されたままの軍艦や見学用の船しか見られませんでした。



《写真 2》

かつては貿易で繁栄したナントですが、港の機能がより河口に近いサン・ナザール市へ移転すると、市内の造船所は閉鎖に追い込まれ、大量の失業者が出たとのことです。

1980年代厳しい経済状況に直面したナント市が再生に向け取った施策の1つが「文化による都市の再生」で、ロワール川の中州にあるナント島の大規模プロジェクトということでした。

写真3はナント島のデュビジョン造船所跡の風景です。

ここは1987年に閉鎖されたのですが、タイタン起重機、斜路等の保存が決定されたので起重機も鮮やかな黄色に塗装されていました。



《写真 3》

同じナント島で巨大な象のロボット（マシン）に遭遇しました。これは「グラン・エレファン」と言って高さ12m、重さ50tあるとのこと。その迫力は相当なものです。

実際に人を乗せて歩き回ることができ、子供から大人まで大人気だそうです。



《写真 4》

ナントは『地底旅行』、『海底2万里』、『80日間世界一周』等で有名な作家ジュール・ヴェルヌ（1828～1905）の生誕地でもあります。

SF的な精神が町おこしにも活かされているように感じました。

フランスの週刊誌「ル・ポワン」が2003年に実施したアンケート（人口10万人以上の都市を対象）によれば「フランスで最も住みやすい都市」にナントが第1位に選ばれたとあります。「住居」、「娯楽」、「安全」、「教育」等12項目にわたる総合点の結果ということです。

写真5はナントの代表的公共交通機関トラム（路面電車）の停留所です。

ナントのトラム復活は1985年とのことですがフランスにおけるLRT（Light Rail Transit、次世代型路面電車）を導入した最初の都市でもありました。

当時のフランス都市政策、交通対策の国家的パイロットプランの一環だったとのことです。



《写真 5》

旅行者として初めて訪れたマチでしかもそのほんの一端を垣間見ただけなのですが、都市再生に向けてのヒントがここナントにあるように思われました。

イベント

海洋センターと水深6.5m岸壁が供用開始

函館市国際水産・海洋総合研究センターと、隣接する水深6.5m岸壁の供用開始に伴う合同式典が6月2日、弁天町の同センターで開かれた。函館市と函館開建主催で、関係者約250人が出席。函館のみならず、道内の活性化に資する水産・海洋分野の学術研究拠点の誕生を盛大に祝った。



テープカットで待望のオープンを祝った

同センターは水産・海洋分野の研究開発や産学官連携の促進を担う拠点施設。学術研究機関や企業が一堂に入居し、海水を利用しながら多様な研究ができる。これに合わせ、調査・練習船などの係留用に弁天地区の既設岸壁250mを拡幅改良した。

函館市の工藤寿樹市長は「研究者同士のほか、漁業関係者などとの交流や連携を深める拠点。地域の活性化につながる成果が見いだされることに期待する」とあいさつ。函館開建の渋谷元部長は供用によって「函館港が函館をはじめ、北海道の活性化に大いに結びつく」と述べた。

式典後、エントランスホールでテープカットを挙行。工藤市長や渋谷部長ら12人がはさみ入れると、会場内は大きな拍手で包まれた。（記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました）

香深港耐震強化岸壁供用記念式典を開催

礼文町と稚内開発建設部の共催により、6月14日、町民活動総合センター「ピスカ21」で香深港耐震強化岸壁供用記念式典が開催され、関係者約60人が出席のうえ、晴れの供用を全員で祝った。

香深港は、礼文島の玄関口として稚内、利尻とフェリー航路で結ばれ、生活物資の輸送拠点や水産業や観光の拠点としても重要な役割を担い、耐震強化岸壁が未整備だったことから、災害時における輸送方法の確立が課題となっていた。このため、平成14年度より稚内開発建設部が整備を進め、12年の歳月を経て25年度末に完成を迎えた。

式典では、はじめに小野徹礼文町長が式辞を述べられ、プロジェクトの事業概要を説明したほか、「稚内～利尻礼文航路のすべての港で耐震強化岸壁が整備され、緊急時や災害時における迅速な対応ができる施設となった」そのうえで、今後の港の展望や来年春にはボーディングブリッジが完成することが伝えられた。

この後、七澤馨稚内開発建設部長が式辞、深海正彦国土交通省港政課長らが来賓挨拶、祝辞を述べられ、最後に関係者や地元の保育園児12人がテープカットし、強化岸壁の供用開始を祝福した。

（記事は北海道通信新聞から抜粋して掲載しました）



保育園児と一緒にのテープカット



完成した耐震強化岸壁

石狩湾新港開港20周年記念式典を開催

石狩湾新港開港20周年を記念して、6月10日に札幌市内のホテルで記念式典と祝賀会が開催され、関係者らが開港20年の節目を祝うとともに、今後のさらなる発展への決意を新たにしました。

石狩湾新港は、平成6年に関税法における出入国港として指定を受けて国際貿易港になってから、この日で20周年を迎えた。この20年間の取扱貨物量は、木材チップ、LNGの飛躍的な増加により、175万トンから473万トン

へと大幅な伸びを示している。

式典の中で、石狩湾新港管理組合管理者の高橋はるみ知事は「近年は、LNG基地が稼働し、火力発電所建設計画もあるなどエネルギー供給基地として期待されている。20周年を契機にさらに発展させていきたい」と式辞で述べられた。この後、高橋知事や中松義治小樽市長、田岡克介石狩市長、来賓の方々がくす玉を割り、喜びを分かち合った。（記事は北海道建設新聞から抜粋して掲載しました）



喜びの中でのくす玉割り



石狩湾新港の現況（LNG船）

増毛えび地酒まつり2014開催

5月24、25日の2日間、JR増毛駅前のふるさと歴史通り周辺で開かれた。

会場は、水揚げされたばかりの海の幸や町内で造られている日本酒を買い求める来場者で賑わい、新鮮な魚介類などに舌鼓を打つ姿が見られた。

「えびまつり」（増毛地方卸売市場買受人組合主催）と、「酒蔵まつり」（国稀酒造株式会社主催）がふるさと歴史通り周辺を会場にして一緒に行う形になり、今年で3年目を迎えた。

主催者発表で24日は1万7千人、25日は2万人が来場。合わせて3万7千人で昨年より2千人少なかった。

「えびまつり」は、株式会社遠藤水産と増毛漁業協同組合周辺が会場。遠藤水産では、水揚げされたばかりの

甘エビを24日は5トン用意し、1キロ1千5百円で即売。来場者が午前7時頃から列をつくるほどの人気で、約3千箱を販売した。25日は、しけの影響で水揚げは2トンほどだったため280グラム入り1パックを5百円で販売。このほか、甘エビやボタンエビの握りなども好評だった。増毛漁業協同組合では、タコやホタテを販売。多くの来場者が炭火焼きにして味わった。

「酒蔵まつり」は国稀酒造の敷地内で開催。イベント限定の酒や菓子、漁協青年部が製造に携わる船積み酒「漁師の力酒（ちからみず）」を販売。お楽しみ抽選会、同社製品の試飲コーナーなども設置した。

（記事は日刊留萌から抜粋して掲載しました。）



大型客船等寄港

大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が函館港に寄港

函館港史上最大の大型クルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」(11万5875トン)が6月8日、同港港町ふ頭に寄港した。船内では初入港を祝う歓迎セレモニーが開かれたほか、地元向けの見学会も行われ、市民らでにぎわった。

英国船籍の同船は全長290メートル、幅37.5メートルで、海面からの高さは54メートル。横浜港発着でロシア・サハリンなどを巡る10日間のツアー中で、前夜に小樽港を出発し、午前7時40分ごろ接岸した。函館山は雲で覆われていたが、2,200人の乗客らは笑顔で下船し、バスなどで市内観光に向かった。

同船は8日夜、青森港に向けて出港した。今年は函館

にあと7回寄港する予定。

(記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました)



港町ふ頭に接岸した「ダイヤモンド・プリンセス」

大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が小樽港に初寄港

プリンセスクルーズ社(米国)の大型クルーズ船、ダイヤモンド・プリンセスが6月7日、小樽港に初寄港した。ダイヤモンド・プリンセス(イギリス船籍)は、三菱重工長崎造船所で造られた日本最大の大型客船で、総トン数は11万6千トン、全長290m、全高62mと、まさに60階建てのビルを横に倒した大きさである。

今回のクルーズは、2日に横浜港を出航、釧路から知床半島を周遊し、サハリンのkolサコフを訪ね、7日の午前6時、小樽港に寄港した。勝納ふ頭では、市民による歓迎イベントが催される中、外国人1,400人を含む約2,100人がバス、タクシーに次々と乗り込んで、お気に入りの観光地へ向かった。

ダイヤモンド・プリンセスは、今回を含めて7回の小樽寄港を予定し、同社のサンプリンセス(7万7千トン)も小

樽発着クルーズを含めて14回の寄港を予定している。

(記事は北海道建設新聞から抜粋して掲載しました)



勝納ふ頭に接岸中のダイヤモンド・プリンセス

各港で舟漕ぎ大会や ボートレースが開催される

第10回釧路港舟漕ぎ記念大会 (国際バルク戦略港湾着工決定大会)

「国際バルク戦略港湾着工決定大会」と銘打ち第10回の節目を迎えた釧路港舟漕ぎ大会が8月2日(土)、釧路川の幣舞橋と久寿里橋間で開かれ、快晴の中一般の部67チームと女性の部23チーム合わせて過去最多の90チームが熱戦を繰り広げた。いずれも大会新記録で一般は「J&HI」が初優勝、女性は「漕ぎまくり隊」が4年ぶり4度目の優勝を手にした。



熱戦が繰り広げる舟漕ぎ大会



女性も頑張る舟漕ぎ大会

今年は10回目の節目を記念し、表彰の副賞を一般の部優勝50万円、2位20万円、3位9万円など総額200万円以上と大幅に拡充した。

大会本番のこの日、釧路市内は最高気温23.2度と昨日の夏日よりは幾分和らいだものの、会場は強い日差しと出場選手、見物客の熱気に包まれた。選手は兩岸から声援を受け、一生懸命ゴール目指しオールを漕いでいた。

(記事は釧路新聞から抜粋して掲載しました)

苫小牧港ハスカップボートレース

8月2日に苫小牧港西港区北埠頭のキラキラ公園で、ゴムボートでタイムなどを競う「苫小牧港ハスカップボートレース」には、市内の企業など28チームが参加して開かれた。

1チーム5人でボートをこぎ、予選と本選のトーナメント戦で熱戦を展開した。参加者は家族や同僚からの応援を受けながら必死にオールを操っていた。

(記事は苫小牧民報から抜粋して掲載しました)



函館港ペリーボート競漕

8人乗りの手こぎボートで競う第6回「函館ペリーボート競漕」が8月3日、函館港若松南ふ頭前で行われ、市内などから48チームが参加し熱戦を繰り広げた。

レースは一般の部と女子の部に分かれ、150mの往復コースで、3隻ずつの勝ち抜き戦で行われた。ボートは今年新造したもので、昨年までとは操舵などの感覚が異なり、中には折り返しの際にうまく曲がれず苦戦するチームもあった。参加者は岸壁の同僚や家族からの声援を受け、オールで水しぶきを上げつつ懸命にゴールを目指していた。（記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました）



第3回むろらん港鉄人舟漕ぎ大会 ～舟漕ぎ息合わせ力強く～

手漕ぎの磯舟で速さを競う「第3回むろらん港鉄人舟漕ぎ大会」が7月20日、室蘭港中央ふ頭旅客船バースで開かれ、陸上自衛隊幌別駐屯地の隊員でつくるチーム「舟こぎま〜す」が初優勝した。

室蘭観光協会や地域活性化を目指すNPO法人羅針盤などでつくる実行委員会が、港を活気づけようと2012年から毎年開いている。室蘭と登別の社会人や学生ら計29チーム出場した。チームはこぎ手6人と艇長、旗持ちの計8人。レースは緑、赤、黄の各色に塗り分けられた全長7メートルの磯舟3隻を使い、往路90メートル、復路60メートルの計150メートルでタイムを競った。

この日の最高気温はほぼ平年並みの22度。しかし、会場には秒速5メートル前後の東風が吹き、あおられてコースをそれるチームも。予選タイム上位9チームが、3チーム毎に分かれてトーナメント戦に臨んだ。「舟こぎま〜す」は決勝で艇長が漕ぎ手への的確に指示して折り返し地点を無駄なく回頭、2位に6秒差の1分47秒でゴール。チームの砂田康宏代表は「目いっぱいこぐのだけでなく、バランスをとって真っすぐ進めることを心掛けた。昨年は予選落ちだったので雪辱を果たせた」と喜んだ。同チームは8月2日の釧路港舟漕ぎ大会への招待チーム出場権が与えられた。（記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました）



室蘭民報



北海道新聞

腕っぴしの強い男たちが熱戦を繰り広げた鉄人舟漕ぎ大会

稚内副港ボートレース

第54回稚内みなと南極祭りの最終日の8月3日、第1副港に設けた直線80mのコースを往復する「稚内副港ボートレース」が開かれた。多くの市民が楽しめるイベントとして、参加者は市内企業や愛好家、友人同士など幅広く、ボート歴も初心者からベテランまで様々で、36チームが出場した。

当日はあいにくの強風に、ボートが真っ直ぐ進めず、いつの間にか舳先があらぬ方向に向く展開が続き、岸壁に陣取った観客からも「しっかり・・・」などの声援。白熱したレースの結果、北海電気工事(株)稚内営業所の「ノースシー」がみごと初出場初優勝を飾った。

(記事は日刊宗谷から抜粋して掲載しました)



白熱したレース

Information

◎広報委員会だより◎

平成26年9月現在の広報委員は次表のとおりです。
今後ともよろしくお願いします。

委員長	佐見 誠	東亜建設工業(株)
副委員長	白川 隆司	東洋建設(株)
委員(部会長)	小山 良明	白鳥建設工業(株)
(副部会長)	志賀 保	五洋建設(株)
(副部会長)	東 志郎	萩原建設工業(株)
	大西 治朗	菱中建設(株)
	櫻庭 榮	(株)中田組
	荒井 直人	東亜建設工業(株)
	毛利 照男	釧石工業(株)
	渡辺 修司	(株)菅原組
	大倉 正憲	勇建設(株)



北前船競漕大会 (江差港)

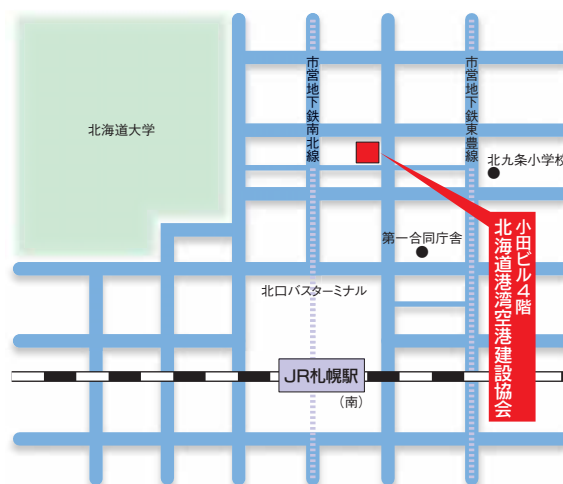


開陽丸



フェリー係留 (江差港)

北海道港湾空港建設協会 案内図



会報「北のみなと」No.83

発行年月 平成26年9月
 発行 北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)
 TEL (011) 707-4731 FAX (011) 707-4733
<http://www.hokkaido-kkk.jp>
 Email: hkkk@h4.dion.ne.jp
 編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会
 編集責任者 小山 良明
 印刷 須田製版